



**ワクチンの有効率の解釈について**

最近では新型コロナウイルス、インフルエンザワクチン、帯状疱疹ワクチン、肺炎球菌ワクチンなど、日頃の診療でワクチンが頭から離れませんが、先日は、神戸大学の感染症科の教授



**松原 清二 医師**

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長  
総合内科専門医・循環器内科医  
・日本循環器学会専門医  
・日本内科学会認定医  
・認知症専門医  
・認知症サポート医

で、私もよく勉強させてもらっている岩田健太郎先生の新书『ワクチンを学び直す』を読みました。その中でワクチンの有効率について丁寧な記載があり、うちの職員に話したところ、目から鱗の表情でしたので、ここでもご紹介したいと思います。

	感染した	未感染	感染者の割合
打った	15	9,985	0.15%
打たない	150	9,850	1.5%

ここで両者の割合を見ると、 $0.15 \div 1.5 = 10\%$ となり、これはワクチンによって減った感染症なので、どれくらい減ったかといえば100 - 10 = 90%。これがワクチンの有効率となります。当院スタッフと話した限りではワクチンを打

た群が感染に罹らなかった割合、有効率は99.85%を想像していたようです。

臨床研究は有効性を見る上で治療介入をした群とそうでない群との比較対象の上で成り立ちます。

報道でもあまり詳しく伝えられてもいないので、この記事の読者の方が「そうだったんだ!」と思ってくれたら良いなと思います。

[まつばらホームクリニック]  
☎ **042-439-1250**  
西東京市東町 4-14-18-2F  
(訪問中のため不在が多い)  
■電話対応: 午前9:00~午後6:00  
■定休日: 土日(祝日は診療)  
■訪問地域: 西東京市、東久留米、新座、練馬の一部  
まつばらホームクリニック 検索